

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200077		
法人名	株式会社 ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホームむつみ		
所在地	千葉県松戸市六実1-47-2		
自己評価作成日	平成23年12月25日	評価結果市町村受理日	平成24年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成24年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアネット徳洲会の理念をもとに、ホームでは5つの実行方法を作成し、運営しています。「出来る事はして頂く」事に重点を置き、残存機能を生かして生活して頂いております。今年の事業所は『笑顔と感謝 ゆったり 楽しく 心地よく』を掲げ、一丸となりケアに努めて参ります。また、昨年取り入れ始めた、保育園児との交流会や町内会との避難訓練は継続してゆきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは徳州会グループの「ケアネット徳洲会」が運営するグループホームであり、「その人らしさを尊重しながら、スタッフと入居者様と楽しく生活すること」を目指しており、食事の盛り付けや配・下膳なども一緒に行い、生きがいを持って生活している方が多い。施設長以下職員はヒヤリハットや困難事例なども含め、日々のホームでの出来事を包み隠さず運営推進会議などを通じて家族や関係者と共有し、理解を得ながら開かれたホーム運営に努めている。また、より良いケアの実現を目指して毎年新しい課題を職員とともに共有し、着実にホームの介護力のレベルアップをはかり利用者・家族からの信頼も厚い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼、夕礼では徳洲会とケアネット、むつみの理念を唱和し、理念に基づいたケアを心掛けている	徳洲会の理念下に「生命を安心して預けられるホーム・健康と生活を守るホーム」というホーム独自の理念を職員とともに作り上げ、5つの方針を定め信念を持ってケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には町内会長、町内に在住の民生委員も参加下さる。保育園児、小学生との交流、また、地域の文化展に入居者様の作品を出展している。愛のエコキャップ運動も町内会の協力を得ている	かねてから地域とのつながりの重要性を痛感し、保育園児や小学生との交流をはじめ文化祭への出展、エコキャップ運動への参加など、様々な形で地域と連携した運営を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	初めての試みで、町内会の方を交えての避難訓練を実施。年間行事に取り入れたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施している会議で頂くご意見を参考にさせて頂き、実践している	協力病院看護師、地域包括、在宅支援センター職員、町内会長、民生委員、利用者・家族などの参加を得て2か月に1度開催している。介護現場でのヒヤリハットやトラブルなどもすべてオープンにして話し合い、理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政とは連絡を取り不明な点や手続き方法を教えて頂いている。地域包括とは見学者の紹介もして頂いている。介護相談員は月に1回、入居者様の相談にみえている	松戸市高齢者福祉課には報告・連絡・相談などを通じて連携を取っている。また市主催の研修会等にも積極的に参加している。地域包括には毎回運営推進会議に参加を得て、何でも相談できる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。徘徊、離れホームでの安全の為、やむを得ず玄関は電子錠	市主催の身体拘束廃止の研修会に職員を交代で参加させ理解を深めている。多くのヒヤリハット事例を体験しながらも、利用者の自由を第一に考え身体拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3月に外部研修、3月、11月には内部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、実践者研修修了者の5名で少しずつ広めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定は一部行ったが、クレームはない		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を頂いたら報告し合い、ケアプランに落とし、共有している。入居者様やご家族様の意向に沿えるように心掛けている。意見箱も設置している。	家族来訪時の会話を大事にしている。また、運営推進会議には利用者・家族も参加してもらい、ホームでの出来事を包み隠さずオープンにして理解を得るとともに、家族の希望を吸い上げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回は管理者と職員との面談の時間を設け、また、月に1度の全体会議、2月毎のフロア会議での意見をもとに改善を行っている。研修報告会議も実施。	毎月全体会議とユニットごとのフロア会議を軸にホーム運営を行ない、会議に続き研修報告も実施している。年に2回施設長は職員との個別面談を実施し、業務の振り返りと今後の課題などについて話し合っている。施設長に対する職員の信頼は厚い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々、業務に関する担当を割り当て、責任を持って勤められるように、また、管理者は常に職員の意見を聞く、コミュニケーションをとる事を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を案内し研修を受けられるような時間調整を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの施設との交流、市内のグループホーム協議会に加入		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	場所、他の入居者様、職員と、ホームでの生活に慣れて頂けるよう、時間をかけて行う。また、情報を共有しあい、傾聴している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに電話で連絡を入れ、疑問点に答える。面会時には入居者様も交えて、近況報告をし、安心して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族のアセスメントをし、カンファレンスで話し合っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り、家事は入居者様と共に行い、関係を築いている。正月に自宅に戻られた方はホームに戻られた時「帰ってほっとした」と言われていた		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの相談ごとにも傾聴している。また、イベントはご家族様参加型へ移行して行っている。外食会にも参加して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達が面会にみえる方もおられる。お友達がイベントに参加して下さることもある	地域の保育園との交流や敬老会への参加の他、お友達がホームを訪問されたり手紙のやり取りを支援している。来訪時にはコミュニケーションを大切にし、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が孤立しないのは無理があるが、どうしたらいいのか常に心掛け、声掛け、散歩、買い物などで支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方の面会を実施している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活から読みとったり、会話から聞き取り、カンファレンスからケアプランへ落とし込んでいる	利用者毎の担当職員を決め、きめ細かいケアができるよう取り組んでいる。思いを言葉で表現できない方は、日々の表情や行動から汲み取りケアノートに記録している。職員は情報を共有し意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取った小さな情報も欠かす報告しあい、共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤者⇔夜勤者の申し送りは欠かさず行う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のカンファレンスをもとに、ケアプランに落とし、モニタリング、評価、見直しをしている。3カ月毎にご家族と面談をし、計画を更新、承認、配布を行っている	初回のアセスメントから介護計画を作成し、モニタリング、アセスメント、カンファレンスを繰り返し、より良い介護計画を作成している。長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月とし、家族にも3ヶ月毎に説明し了解を得てる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とは別に個別の記録を作成し、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージを希望される方には訪問マッサージを紹介		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化展に出品 消防署からの教育 地元小学生との交流 こども110番登録 保育園との交流会も開始しました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医が毎月2回往診 急変時も電話の対応で往診して下さる 電話での相談にも応じて頂いている	ホームの協力医による月2回の往診と、毎週の訪問看護、定期的訪問歯科の利用の他、家族による通院も行われている。入院できる提携病院も2ヶ所あり適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週1回の健康チェックにきて頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同グループの総合病院に依頼し、急変時の入院受け入れをスムーズに行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて指針を新たに作成し、ご家族にも新たに説明をした。医師から教育を受け、職員にも研修を行った	「看取りに関する指針」を作成し、家族に説明し了解を頂いている。重度化した場合における医療体制指針も作成され、職員も研修を受けている。ホームとして家族、医療関係者等と連携を図りながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防署の救命処置訓練を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練、消火訓練を実施 夜間を設定の町内会との避難訓練を実施	消防署立ち合いも含めて年4回防災訓練を行っている。町内会の方を交えての夜間想定訓練も行い、地域との連携体制作りにも努めている。昨年の東日本大震災時には備蓄食品や水の確保で何とか乗り切り、以後食品の備蓄を心掛けている。	地域との協力体制作りは機会あるごとに、継続的に行って欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	使用禁止用語を貼りだし、接遇の内部研修を行った。職員で注意合っている。 また、衣類を自ら選べる環境を整えている	利用者一人ひとりの生活習慣やプライドを大切に、援助が必要な時もさりげない言葉かけを心掛けている。朝の衣類選びは利用者が行い一日を気分良く過ごせるよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	団体生活に囚われず、自由に過ごされる方もおられる。 また、調理実習を設けている(食べたい物を決めて頂き、買い物に行き、調理を行う)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクの時間を工夫して設ける様に心掛け、出来る事、やりたい事の支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定の出来る方はご自分で衣装を選んで頂く環境を整えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自己決定の出来る方はご自分で衣装を選んで頂く環境を整えている	利用者は食事の下ごしらえ、盛り付け、下膳まで一緒に行っている。職員は同じテーブルで一緒に食事を味わい、食事時間を楽しいものとしている。年に数回の外食や季節の行事食等も楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食べられる量、飲める量の把握をし、チェックを行っている。食べて頂ける工夫もしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。歯間ブラシを使用。訪問歯科医からのアドバイスや受診も充実、口腔ケア講習会も実施しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に応じて対応している。基本はトイレでの排泄を心掛けているので、時間でのトイレ誘導も実施している	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、周囲に配慮しながら誘導の声掛けを行っている。身体状況に応じて誘導方法も変えているが、気持ちよく排泄できるようトイレの中にも可愛いらしいボックスを用意し、排泄用品を収納するなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘や下痢の無いようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	風呂場は1日解放。基本は午後だが、その日の入居者様のご希望に応じて朝、夕刻にも対応している。	浴室は個浴だが、広々としており利用者の希望に応じて入浴している。午後のゆったりした時間にリラックスして入浴を楽しんでいる。入浴を拒む方には言葉かけを工夫したりチームワークで臨んでいるが、無理強いせず利用者の気持ちを大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は各フロア1人での対応。安心して休んで頂ける様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	不定期だが、医師と共に服薬の見直しを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのニーズに合った支援をしている。最近はノンアルコールビールはイベントでの必需品となっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中には散歩の支援をしている。日用品の買い物に入居者様と出かける事も多い。また、ご家族との外食会もイベントとして毎月行っている	天気の良い日には午前中に散歩に出かけている。自治会の行事に参加したり地域の保育園にも年に数回出掛け交流している。家族と外出する機会や職員と一緒に買い物に出掛ける等、一人ひとりが外出を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの管理は管理者が行っているが、個人の買い物を職員と一緒に買い物に出掛ける方もおられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行すが、今迄依頼はない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は入居者様の作品を展示したり、イベントの写真を貼っている。干支や季節のディスプレイも欠かさないよう心掛けている	昨年末に新しくなったウッドデッキは避難時の集合場所や、季節毎の憩いの場としても楽しめる。フロアには見事な利用者の作品が飾られ、TVの前には真っ白なソファも置かれ明るい居心地の良い空間になっている。キッチンからも利用者の様子が窺えるように、テーブルの配置等工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自立されている方はそれぞれが気の合う方を見つけておられ、一日話をされている事もある。一人で時間を過ごされる事もあり、自由に生活をして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を使用している方もおられる。以前作ったものを居室に飾って楽しませている方もおられる。	居室には利用者の使い慣れた調度品が置かれ掃除も行き届いている。本人・家族と相談しながら衣類の収納・飾りつけ等、安心して過ごせるよう工夫している。ベットマットはリネン交換時には必ず上げて日に当てている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆様が自由に生活が出来るように見守りを強化、出来る事、やりたい事の援助、一緒に生活をしている実感を味わえる毎日を提供したい		